

新規採用職員との懇談会の話題 2013年4月2日 尾池和夫  
(当日の懇談をもとに追加した内容です。)

瓜生山学園に新しく採用された方々に、ご挨拶申し上げます。私も新規採用の一人です。

ちょうど新しい年度の始まりを祝うように、947名の新入生を祝うように、皆さんの就職を祝うように、今、哲学の道の桜が満開です。橋本関雪とその妻ヨネが京都市に寄贈した桜360本に、京都市が180本を足して合計540本の桜並木にしたと言われています。今でもその半数ほどが残っていて、関雪桜(かんせつざくら)と呼ばれます。

キャンパスの中に、またその周辺にどのような木が植えてあるか、なぜこの学園のある瓜生山には、たくさん赤松が生き生きと林を作っているのか、そんなことを考えながら、キャンパスを歩いてみてほしいと思います。そこに学生に配布した「京都造形芸術大学を学ぶ」というパンフレットの意味を見つけてください。

今日お集まりの皆さんは、日本の高等教育を担う職員として、とくに芸術立国をみざす瓜生山学園の職員として、自ら志願して得た職場での活躍を夢に描き、希望に燃えていることでしょう。皆さんが参加する職場には、事務の職場、施設の職場、図書館の職場、広報の職場、通信教育の職場など、実にさまざまな仕事場があります。

高等教育の特徴は、もちろんその高度の専門性にあります。そして多様な学生を育てていく役割があります。みなさんの職場は、そのような学生がいて、教員がいて、それらの活動を支援する職員たちがいる、そういう職場であります。

どの部屋を見ても、実に多様な仕事場を見ることができるでしょう。まずは、皆さんが仕事をする職場の身の回りから、多様な仕事の内容を、少しでも理解することを心がけてほしいと思います。そして皆さんご自身も、これだけは他の人に負けないという、得意技をぜひ身につけていただきたいと思います。

大学で最も大切なのは、もちろん学生です。そのことをまず、しっかりと意識してください。今日の皆さんに負けない意欲を持って入学してきた新入生たちが今キャンパスにあふれていて意欲に燃えています。その学生たちの意欲をいつまでも持たせるのは、教員と職員の仕事の仕方にかかっています。

仕事をするときに、私自身がモットーとしているのは、3現則です。それは「現象、現場、現在」を大切にすることです。仕事をするためにはものごとを、現象としてしっかり見ることが大切です。それも現場に行ってみることが大事です。そして現在の姿を見ることが大事です。そのとき最も重要なことは、見た内容をしっかり記録しておくということです。そのようにして得た情報を基にして仕事を進めていくと、それが他からは得られない自分だけの得がたい情報源となります。

職場には、皆さんの先輩がたくさんいます。その先輩たちをつかまえて質問し、提案し、議論してください。京都造形芸術大学では、多くの職員たちが教員としっかり連携して、自分たちで学習しつつ研鑽につとめ、たいへんな意欲を持って活躍しています。職場には、長い年月で培われた知恵が重要であり、若い意気込みも重要です。それらが融合したとき、皆さんの職場は大きな力を発揮して、学生を育て、研究を進展させることになるのです。

仕事に迷ったときには、思い切って信じる道を進んで下さい。失敗しても大丈夫です。分かれ道に来て迷ったら、瓜生山学園のミッションを思い出して、教育と研究と社会貢献のために、学生のためになる

と信じる道の方へ進んで下さい。それさえ守っていて下されば、失敗があっても大丈夫です。どうか安心して思い切り仕事をしてほしいと思います。

心身の健康が、仕事をする上で何よりも大切です。仕事をしていて行き詰まったときには一人で悩まず、かならず誰かに声をかけて相談してください。きっとそこから解決の糸口が見えます。相談相手が見つからないときには、上司にあるいは同僚に、あるいはカウンセラーに相談してください。いつまでも一人で問題を抱えていてはいけません。早く人に相談するということを、仕事を進めるためのコツの一つとして覚えておいてほしいと思います。

心と体の健康に十分気をつけながら、バランスのとれた食事をとり、体と脳を最大限に活動させてご活躍くださるよう、心から願っております。

ありがとうございました。